

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093100073		
法人名	麻生介護サービス株式会社		
事業所名	アップルハートのくつろぎ春日		
所在地	春日市小倉3丁目71-5		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果確定日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成28年11月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

アップルハートのくつろぎ春日は、関係機関と密接な連携を図りつつ、お客様の心身の状況、その置かれている環境及びご希望を踏まえ、家庭的な環境とお客様それぞれの役割を持って日常生活を送る事が出来ようサービスを提供し、お客様の認知症の進行を緩和し、安心して日常生活を送る事が出来るようにお手伝いさせていただきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アップルハートのくつろぎ春日」は小規模多機能事業所と併設型の1ユニットグループホームである。母体法人は福岡県内一円で総合的な福祉サービスを提供しており、訪問看護、訪問歯科、福祉用具などの連携によって一体的なサポートがなされる。定例研修によって職員教育の取り組みも最近では春日市内の地域密着事業所との連携も強化され、認知症サポーター養成講座や啓蒙の劇などにも取り組み小中学校での公演もしている。自治会の加入も今年からするようになり、地域との関係も深まりつつある。入居者の生活リズムを変えず、自分のペースで過ごしてもらうことを大切に、認知症であることを忘れて過ごせるような支援を心がけている。併設の小規模多機能からの利用も多く環境を変えずに継続したサービスが提供できている。今後地域に対しての存在感の発揮が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて企業目的・行動規範を唱和しております。法人全体の事業理念があり、小規模多機能と合同で、毎日の朝礼の他、毎月の定例研修時にも唱和している。名刺サイズの「行動規範カード」が全社員に配布され、常時携帯して日頃から意識付けがされている。規範に沿った行動ができるように、面談時などで指導、注意も行われている。	法人理念を主に使って毎朝の唱和をし、管理者が日頃から口にして伝達する。毎月の事業所会議時にも唱和し、この際は企業目的と行動規範を伝える。開設時には法人主体の理念、規範についての研修があり、3年と5年目には社内の現任研修を行う。その際にも理念に関してが伝えられる。内容に関してはよく理解されているが本質的なことを伝えたいと考えられている。	生活に沿ったグループホーム独自の理念を作りたい。職員同士で話し合って決める。わかりやすい言葉で伝える。改めて理念そのものについて話し合う機会を持つ。言葉の意味を改めて見つめなおす。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小倉区自治会の毎月の福祉サロンに参加。夏祭りの後片付け、佐儀長の用意に参加。今年、自治会にも参加し、地域の寄り合いや、困り事など、状況に合わせて関わりを深めていきたい。また、餅つきやバザーなどは、利用者様と一緒に参加出来るものは、参加してもらい、地域との繋がりを持つと共に、利用者様の社会性を引き出して行っています。	社市協が公民館で主催する福祉サロンには開設当初から職員が手伝いで参加し、地域の餅つきには入居者も一緒に行っている。事業所の地域交流室は開放して、地域のサークルに利用してもらったり、サポーター養成講座などにも活用している。今年初めてバザーを企画して地域からの参加も多く盛況だった。地域の事業所同士で協力して認知症啓発活動なども積極的に取り組んでいる。毎月自発的に地域清掃をしており、入居者と一緒に取り組んでいる。	入居者と一緒に参加できる地域行事を増やしたいと希望しており、地区全体でお花見の企画実行を、自治会長と話し合ってイベントとして行うことを来春に予定している。実現に期待したい。また、徘徊模擬訓練の企画、実施がなされることも望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春日市の地域密着事業所が集まり、自治会や小学校、中学校、一般向けに認知症サポーター養成講座を実施し、より認知症の方に身近な街づくりの一環として実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して、良い所、悪い所を報告しています。また、地域の目があるという事を意識出来、より利用者様本位のケアに近づいて行っているのでは思う。日々体調も変化する為、ある程度決まったサイクルでの生活を送られていますが、季節に合わせて、段々起床も遅くなってきています。それに伴い、食事も合わせているので好きなような暮らし方は出来てきているのかなと感じています。	2ヶ月ごとに開催し、小規模多機能と合同で開催。市職員、地域包括、自治会長、社協、民生委員など地域の参加多い。家族は月ごとに担当を決めて決まった方に対してのみ案内している。入居者が参加することもある。直近の報告、取り組み内容を伝え、地域の行事情報も頂いている。議事録は参加者には手持ちで報告している。	昼食会形式など、日頃の様子を見てもらえるように行事との同日開催での運営推進会議を計画しており、実現に期待したい。会議が運営に活かされるように、バザーや、花見など地域にも絡む取り組みの相談や報告、案内などが計画的にされるような運営をしてはどうだろうか。隔月発行の「くつろぎ通心」に開催予定。行事予定もいれるのも良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方々も質問には迅速に対応して頂いています。また、市役所の方々も相談しやすく、演奏会やイベントなどの情報提供して頂き、外出するきっかけをいただいています。	運営推進会議には毎回決まった担当者が参加してくれている。質問や相談事もしやすく、給付に関してや認定に関して気軽に連絡して回答してもらっている。毎月地域密着型事業所の定例会があり、そこにも毎回市職員が参加している。今後はグループホームでも空き情報の定期共有をしていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないを原則に行っています。また、言葉での拘束も行わない様に、言葉遣いや、ケアの中での優先順位をどのように付けて対応するかなど、日々の変化に合わせてスタッフ間で共有し対応しています。	玄関の施錠はなく、夜間のみ防犯のため施錠している。2Fの入り口のみセンサー設置している。外に出たい方がいる時は見守りや付き添いで無理に引き留めず自由にしてもらっている。夜間の転落防止のため四点柵の利用があったが、同意、記録、見直しの上、すぐに解消した。年間計画の中で、内部研修として拘束に関して取り上げる。外部研修には個別に参加する。	身体拘束に関する外部研修の参加が定期的になされることに期待したい。また、参加時は資料回覧や、伝達研修がなされることも望まれる。

H28自己・外部評価表(アップルハートのくつろぎ春日)1.4

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年必ず1年に1度は研修行っています。また虐待の研修は、外部研修のスタッフに勧めより知識を深めてもらい、ケアに活かしてほしいと考えています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用の事例はなく、過去にもなかった。昨年、ケアマネージャーが権利擁護の研修会に参加したことがあり、必要なときには支援を行い、近隣の方の相談に対応したこともある。何かあった時には外部の関係機関とも協力して対応を行う。	昨年ケアマネが外部研修に参加して、内部での伝達も行った。必要そうな家族に対して案内をすることもあったが、いまのところ利用には至っていない。年間計画の中で権利擁護に関しても扱い、基本的な理解はしている。制度資料、マニュアルはある。必要時には法人内の関連部署とも相談して対応できる。	今後の必要時に備えて、社協などにある制度活用パンフレットなどを説明用に備え付けてはどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と解約時に説明を行ないご納得頂き署名・捺印を頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のモニタリング、外部評価時のご家族へのアンケート。また玄関先にも意見箱を設置したり、地域のイベントや一般向けの研修なども開示しており、一緒に知識を深めたいと考えている。ケアに対しては、家族としての希望もある為、本人様の要望と合わせて計画し実行している。	家族の意見は面会時に聞くことが多い。意見箱の設置はあるが活用されたことはない。個別の要望に対してはすぐに話し合っって対応につなげる。隔月で事業所のお便りがあり、写真付きで日頃の様子を伝えている。	面と向かって言いつらい意見を引き出す。傾聴ボランティアの情報収集、活用を検討してみてもどうだろうか。また、意見箱を活用するために、紙の配布や、設置場所の再考も望まれる。家族会の企画や、家族参加の行事などと合わせた開催の検討、個別のお便りの検討など現実的な取り組みにつながることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議やミーティングを行なっております。必ず全員に発言できるように機会を設けています。また、話しやすい様に最初から予定に入れておき事前準備が出来るようにし、思いを伝えられる様にしています。	毎月の定例会議と、随時開催するミーティングがあり、会議には原則全員参加で、ミーティングはその日の出勤社員で行い、催しの企画や入居者に対しての取り組みなどに関して話し合う。各担当から意見をあげ、パートも含め意見あげやすい。外出行事も企画を出してすぐに計画に移している。管理者との話しやすく個別に言いたいことがあったら言える環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社はキャリアパス制度を採用しております。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しましては性別、年齢は不問です。社会参加や自己実現のお手伝い出来るよう有給休暇制度がございます。20～50歳代の男女の職員同士、経験を活かして意見を出し合い、業務にあたっている。研修案内もされ、希望すれば参加もできるが、今のところソフト上参加は少ない。休憩時間も確保され、希望休暇などもお互いに協力してとられている。それぞれの能力や経験を活かして、サービスにつなげている。	個別面談の機会が半期に一回の定期や随時にもあり、本社の上長との面談もできる。本社からの職員アンケートもあり結果の回答も得られている。法人としてスクール運営もして、資格取得支援を進めており、補助や優遇制度もある。空き会議室を使って休憩もできるが事務室を使うことも多い。PCが得意な職員が写真付きのお便りを作ったり、飾りつけが得意な職員が季節の飾りを作ったり、それぞれの持ち味を生かしてケアにつなげている。	個別で参加する研修に関しても報告などと共に、伝達研修をすることで社内でも共有し、社内制度の勤務として参加しやすくしてはどうだろうか。

H28自己・外部評価表(アップルハートのくつろぎ春日)1.4

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定例研修 高齢者虐待防止 認知症の特徴実施済み。毎月行われる定例研修の中で、法人の用意した資料を元に認知症高齢者の理解や虐待に関して学んでいる。管理者が受講する外部研修の中でも人権学習に関して取り上げられることがあった。	内部研修の中で、拘束や虐待防止に関連したものは年間計画の中で行っている。ケアマネが外部研修に参加したが、人権に関しての情報共有まではなかった。認知症高齢者に対しての理解はサポーター養成講座の実施などで取り組んでいる。現在管理者が外部のハラスメント研修を受講している。	公民館や行政などで企画される一般的な人権学習や、内部研修の中での資料活用など事業所としての啓発活動への取り組みがなされることに期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県GH協議会に加入し研修等に参加しております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県GH協議会に加入し研修等に参加しております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学を行なって頂きアセスメント、居室計画書に本人の意向を聞き出し反映させております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を行なって頂き事前にアセスメント、居室計画書にご家族の意向を聞き出し反映させております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を行なって頂き事前にアセスメント、居室計画書にご家族の意向を聞き出し反映させております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に負担にならない程度に出来る事を一緒に行なっております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には電話、面会時に近況報告を行ないながらご家族にも支援の協力を行なって頂いております。		

H28自己・外部評価表(アップルハートのくつろぎ春日)1.4

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の一部を開放し、地域の方がされているリコーダーの練習などで活用して頂いています。家族やお知り合いの方など、施設で行うイベントなどの時に声をかけ、入りやすくなればと活動しています。	家族の面会は多く、友人や知人などの来訪を受ける方も数名いる。馴染みの寿司屋に行きたいという希望があり、家族と共に実現した。家族に連れ出してもらって外出することもあり、自宅外泊することもあった。元々好きだった料理や縫物など出来ることに取り組んでもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、関係作りを行っている。また個々にあった運動や活動を提供し、一緒に空間で行うことにより、顔見知りの関係になればと支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、今後も何かあればいつでも相談が出来る、支援させて頂ける事を説明しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の暮らしの聞き取りと、また利用者様のやりたい事を探し支援行っている。個別ケアも含め、利用者様の活動の為にスタッフも個々に聞き取りを行い、事業所会議や申し送りなどで共有している。また、家族へは日常の様子をお伝えしながら、やりたい事を一緒に探す事も行っている。	入居前の段階から、生活環境などを細かく聞き出し、アセスメントを行い、本人、家族、職員から情報を仕入れている。見直しは介護更新時に行うことが多い。認定調査時の記録も照会している。事業所から積極的に尋ねることのできたことなどの要望を引き出している。意思疎通の難しい方には日々の状況を観察、反応から見極め意欲が引き出せるように働きかけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや担当者会議を通して情報の共有を行なっております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人を把握出来る様に日々の記録、申し送りを行なっております。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の様子と照らし合わせながら行っている。モニタリングや担当者会議などで、現状の把握に努めている。また、家族と接点を多くする為、イベントなどを多く計画し参加してもらうことで、安定した暮らしにも繋がっているとおもいます。	計画作成はケアマネ、担当制にしており、毎月のモニタリング、プラン実施評価などを職員が担当する。プランの見直しは随時～3ヶ月で行い、その際に担当者会議も開催している。薬剤師や訪問マッサージ、医師にも出来る時は参加してもらい、情報照会記録も頂いている。会議や日々の実施チェックなどで職員間でもプラン共有はよくなされている。ファイル管理も詳細にわかりやすく取り組まれていた。	

H28自己・外部評価表(アップルハートのくつろぎ春日)1.4

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様ごとに個別に支援記録を記入し職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しを行っております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様やご家族の連絡や状況にて急なサービスの追加に対応しております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、地域包括、自治会と連携を行い、必要に応じて連絡、相談を行っております。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する主治医を継続してもらおうが、提携医の往診は月に2回あり、外来通院は家族が介助し、必要ときには事業所からも同行や通院介助を行っている。受診時は家族にも情報を伝えて共有し、薬の情報なども細かくやりとりしている。法人系列の訪問看護とも提携して健康管理を行い、支援している。	外部のかかりつけ医の場合は基本は家族に支援してもらい、必要時に事業所から支援しており、事業所の提携医の場合は往診が受けられる。他科受診など家族がいけない際は事業所から支援することもできる。系列に訪看と訪問歯科があり、何かあった時の駆けつけや相談もしやすい。家族にもその都度報告を上げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行えています。主治医や訪問看護などと相談しながら、利用者様の状況をしっかりと把握できるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はしっかりと現状の情報提供を行っています。また退院後は、カンファレンスにて現状尾の把握と今後の対応も含めて協議したうえで行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今は、話をすることのみです。施設内での見取りを希望される方はまだ出て来られていないのが現状です。たくさん話し合いを行い、施設内にて最後までと行ってもらえるように、きっちりとした終末期対応の計画書を作って行きたいと思っています。	希望があれば最期まで支援する方針はあるが、今までに看取った事例はなかった。法人として指針を策定し、必要書類の準備をしており、重度化の際に改めて取り交わす予定である。提携医は看取り対応もしており、訪看との連携もあって24時間対応が出来る。	今後の対応に備えて、継続的なターミナルケアや医療に関する研修が計画されることが望まれる。

H28自己・外部評価表(アップルハートのくつろぎ春日)1.4

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例研修で研修を行なうと共に心肺蘇生法・AEDの研修に参加し緊急時に備えております。			
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は定期的に行っているが地域の方と一緒にした経緯はない。しかし、近隣の方との連携は図れるように自治会に加入させて頂いている。消防署に建物の構造上、安全と思われる行動目標を検討の上対応出来るよう確認を行い、あらゆる場面を想定しく県連を実施しています。	年2回の訓練実施があり、内1回は自主訓練、1回は消防署立ち合いの夜間想定でも行っている。自治会にも声掛けはしているが、これまでのところ参加はなかった。自治会主体の訓練もあり、管理者が参加している。AEDの設置、使用訓練もしており、カセットコンロを含め備蓄物も3日分程度を確保している。防犯、2Fからの避難経路に関しては市とも協議を行っている。自治会長の参加の内諾は頂いている。	今後は地域との協力体制が築かれ、訓練などの協力が図られることが期待される。ごく近隣の地域住民にも訓練時に案内をしたり、参加を促してはどうか。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせた声掛けや一人一人の人格を尊重し、丁寧な言葉掛けをするよう入社時に研修を行なっている。プライバシーの保護を行なうために排泄や入浴時にはカーテン等を利用しております。共有スペースでは、トイレやお風呂場などはプライバシー保護行っています。	年間計画の中でプライバシーやマナーに関する研修を行う。入居者一人一人に沿った介護を目指し。言葉かけに関しては常日頃から注意しており、ちょっとした時の発言などに気を付けている。事業所のおたよりなどの写真利用に関しては契約時に書面で同意を得て、改めて使用時にも説明している		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操等は体調を見ながら参加して頂いている。レクリエーションの参加はご本人様の意見を尊重している。また、何でも言える環境作りを心がけている。			
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えないが、食事の時間をずらしたり庭や近隣の散歩には対応している。			
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望に応じて月1回の訪問理美容を依頼している。			
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご体調に無理が無い程度に配膳、下膳、テーブル拭きのお手伝いして頂いております。食事作りのお手伝いもして頂いております。また食器を片づけたり、台を拭いたり出来ることはやると決めて行って頂いております。	半調理済みの食材配達があり、最後の処理と、ご飯・汁物は事業所で調理している。出来ることを手伝ってもらい、配下膳や皿洗いなどをしてもらうこともある。外食はレク的に全員で行ったり、個別に対応することもある。簡単なもので調理レク的に、全員で料理することもある。職員は希望すれば同じ物を食べられるが、現在は別時間でとっている。食べたいものの希望はメニューを見て希望を出している。	調理レクなど、職員が同じ時間に同じものを食べる機会を設けて、一つのコミュニケーションとして活かされてはどうか。エプロンの巻き込みなど、拘束につながりそうな行為が引き続き防がれることにも期待したい	

H28自己・外部評価表(アップルハートのくつろぎ春日)1.4

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約時に食事制限の有無を確認し、管理栄養士に適正量を相談しております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず歯磨きを行なって頂き、十分では無い方は職員が口腔ケアを行っております。又、希望により訪問歯科診療を利用し口腔内の健康維持に努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録に残し、定期的なお声掛けや介助を行ない自分で出来ないところの支援を行っております。排泄のサイクルをしっかりと認識し、誘導しています。	1日1枚の排泄チェック表に全員分の排泄時間と、水分摂取量を記録している。半分程度の方が自立して自分でトイレに行き、出来ることはしてもらう。チェック表を見ながら誘導時間を図り働きかける。介助によっておむつ使用が減ったり、尿路感染の減少にもつながった。改善提案は職員全員で取り組み、毎朝の申し送りで話すことが多い。随時の提案も行っている。チェック表は個別の記録に転記して便秘なども対応の漏れのないようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に取って貰える様に促している。便秘気味のお客様には運動もしてもらう様に声掛けをして予防に繋げている。日々の記録により処方薬である下剤の服薬も行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	契約時にご本人やご家族に入浴時間や希望曜日を聞き入浴を行っております。1週間活動も含めある程度決めて行っています。また、入浴予定日でなく本人が望む事があった場合はその都度対応しています	ユニット型の普通浴室で、週3~4回程度、昼から夕方にかけて入浴してもらっている。以前は毎日を希望されている方もいたが、現在は落ち着いている。拒まれた方にも無理強いはせず、本人のタイミングで無理強ひなく週2,3程度は入ってもらう。季節の行事浴や柚子湯なども楽しませている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やお客様に合わせてそれぞれの就寝時間の声掛けを行なっている。処方された眠剤の服薬時間も医師に相談しながらお客様によって時間をかえている。就寝時間を設定しています。好きなように過ごされています。表情や言葉の種類に合わせて、促す事はありますが、特に大きく声をかける事はありません。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様のファイルに最新の処方箋のコピーを頂き、把握に努めている。また、変化があった際にはご家族・主治医に連絡する等、連携にも努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日のお客様に状態等に応じ、ご本人様の意見を取り入れながら職員が楽しめる様に工夫して支援している。また、お客様の趣味等を把握し、個々の対応も行っている。		

H28自己・外部評価表(アップルハートのくつろぎ春日)1.4

自己	外部	項目	自己評価		
			実践状況	実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話などからご本人様の希望を汲み取り、外出の計画を立て行なっております。気候に合わせた会話の中から、以前行かれていた場所や家族と食事していた所など、思い出を巡りながら日々の生活に活気とする気が起こればと実施しています。	日常的には玄関前や敷地周辺に週2回程度の散歩に行っている。車いすや外出意欲の低下した方も全体レクの時などに働きかけて同じように外出してもらっている。毎月1回は何らかの外出レクも企画している。個別での買い物や料理など別個対応をすることも多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物等ご利用者様からご希望があれば、出来るだけ実現出来るようにお手伝いして行きます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、電話機をお貸しして番号と一緒に確認してご利用頂いております。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはカーテンやテーブルの配置換え夏場や冬場はエアコンを利用してあります。玄関・フロア等、季節に合わせて装飾品を取替え季節感を感じて頂ける様な環境作りを行っている。席は、状況に合わせて変えています。蛍光灯も暖色を中心に使用して、明るすぎなく目に影響がない様を考えて使用しています。またトイレは利用者様の状況に合わせてペーパーホルダーを外したりして、危険を未然に回避するとともに、居心地の良い休館作りに努めています	明るいフローリング調のフロアマットはクッション性もあり、滑り止め性能も高い。小さめのテーブルが3脚置かれ、気の合う人同士で座ることが出来る。周囲も開けており、窓も大きいため日当たりも良い。カウンターキッチンからリビングの様子も見通しやすく、各所にある洗面台も使いしやすい高さである。季節感のある造花や調査時には紅葉の飾りつけがなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様一人一人の希望や気の合うお客様同士に状況を把握し、日常生活を過ごして頂きレクリエーション・談話等思い思いに過ごして頂いている。また、独りになりたいお客様に関しては個室でお休みになって頂いております。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなように使用して頂いています。ですが、危険性を感じる物や、不穏となる原因の物に対しては、家族と話し合い、外す事もあります。基本的にはその方の以前の暮らしの再現を行い早期な生活の安定に繋がっています。	家具調の介護ベッドとクローゼットは各部屋に備え付けられている。持ち込みは自由でダンスやソファ、テレビなどを持ち込む人もいる。ホールから近いところに居室も配置されゆっくり自分の時間を過ごすことも出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のニーズと残有能力を理解し、出入口の掲示や歩行運動が出来やすいように矢印を廊下にひいています。		